

子どもたちの夢や希望と勤労観・職業観を育む

子どもたちの多くが、高卒なら18歳、大卒なら22歳で社会に出ます。毎日接している子どもたちを見て、「何年後かに社会に出て、立派にやっつけていけるだろうか。社会的（職業的）に自立できるだろうか。」と不安に感じることはないでしょうか。最近では、若年者の失業率の上昇や、フリーター・ニートなどの雇用問題、さらには「七五三問題（就職3年以内に中卒者の7割、高卒者の5割、大卒者の3割が離職）」という若者の離職率上昇の問題などが、マスコミ等でも取り上げられています。こうした状況の中、教え子たちに自分の夢や希望をかなえてほしい、社会的に自立できる人間に育ててほしいと、多くの教員は願うのではないのでしょうか。

若者の雇用・離職の問題の背景には、さまざまな「変化」があります。その第一は就職・就業をめぐる環境の変化です。経済のグローバル化が進み、激しい競争を強いられる中、企業はコスト削減や経営の合理化を余儀なくされました。採用においても、即戦力志向が高まり、定型業務については非正規雇用への切り替えなどが行われてきました。さらに終身雇用や年功序列型賃金といった雇用慣行の見直しも行われ、若者が、自分の将来の生活に不安を抱くようになり、社会人・職業人としての生き方を展望することが、難しくなってきました。

第二に、若者の勤労観や、職業人としての資質の変化が挙げられます。「今の若者は…」という表現は、いつの時代もあるものですが、勤労観・職業観の未熟さに加え、コミュニケーション能力、対人関係能力、基本的マナーなど、職業人としての資質・能力の低下を指摘する声は、これまで以上に大きくなってきています。

これらのことを総合すると、社会の変化に対応して、子どもたちへの適切で有効な働きかけを十分に行ってこなかった、大人社会の責任が浮かび上がってきます。「子どもたちを育てる」という使命のもと、大人社会の一翼を担う学校教育において、「子どもたちの夢や希望と勤労観・職業観を育む教育」の重要性がクローズアップされるようになってきたのです。

教育現場は、社会の変化に乗り遅れてはいけません。学びの意義を大切に、子どもたちの夢や希望を育む教育に力を注ぐ必要があります。教師自身が社会の変化に敏感になり、子どもたちに適切な進路指導ができるよう、知識や経験を身につけなければならないのです。学校現場だけでなく、地域や家庭と連携して子どもたちを育てる姿勢も大切です。この号では、企業・学校現場・自治体などのさまざまな取組みを紹介しています。「子どもたちの夢や希望と勤労観・職業観を育む」ために、今、必要とされていることを考えてみてください。

<目次>

○将来の夢と学業の接続 P 2	○キャリア教育に関する文部科学省等の資料 P 11
○福井型キャリア教育モデルの模索～小川明彦氏～ P 4	○福井農林高校の実践 P 12
○「アントレ・キッズ」～福井商工会議所青年部～ P 6	○連載「希望学」③～中村圭介氏インタビュー～ P 14
○学校・家庭・地域の連係プレーで～飯田市教委～ P 8	○報告「中高授業改善事例に関わる公開授業①」 P 15
○「私の夢カルテ」～坂井市立雄島小学校～ P 10	○お知らせ P 16

全教員向け
教委向け

将来の夢と学業の接続

～「学びの意義」への理解が学校生活と社会生活を結び付ける～

「確かな学力の向上」「豊かな人間性の育成」が教育目標の中心に据えられています。これらの根幹には、「社会の形成者として必要な資質を備えた国民の育成」という目的があります。つまり、学校教育は、子どもたちが社会人として人生を生き抜くための資質を向上させる役割を担っており、いわゆる「学業」は、社会生活に結び付くものである必要があります。

○高校生の進路選択

「あなたはなぜこの高校を選びましたか」と高校1年生の生徒に尋ねると、「自分の学力相応の学校だったからです」という答えをしばしば耳にします。また、普通科高校の3年生から、「大学進学を希望してはいるのですが、どの学部を選べばいいのかわかりません」と相談を受けることがあります。文部科学省の大学1年生に対する調査でも、約31%の学生が、高校時代に職業を意識できないまま大学に進学したという結果が出ています。このような現状は、まさしくキャリア教育の不足が原因と言わざるを得ません。責任問題を論ずるつもりはありませんが、子どもたちと関わってきた教員にも、責任の一端はあると言えるでしょう。

○「子どものあらゆる成長を育む」根幹を意識して

懇談会の席で、「人としての道さえ踏み外さなければ、勉強はできなくて構わない」と話す保護者に会ったことがあります。現在では、「それなりに勉強ができてほしい」「できれば国公立の大学に進学してほしい」という保護者が増えてきているようです。子どもの大学進学を視野に入れた場合、経済的な負担を考えると、「できれば国公立に」と思うのは、必然かもしれません。しかし、前者の場合も後者の場合も、「キャリア教育」という観点では、いささか欠陥のある家庭教育だと、教員なら誰もが思うでしょう。ところが一つ間違えば、教員自身も、子どもたちを表面的に指導してしまっていないでしょうか。「少しでも偏差値の高い高校や大学に行くために勉強しなさい」とか「テストに出るから覚えなさい」という発言をしているとしたら、今一度、自分の教育観や指導のあり方を問い直すべきです。

○「本物」に触れ、「興味・関心」を高める授業を

授業づくりの工夫も大切です。身近な題材を用いて、子どもたちが主体的に考え、表現する機会を多く設定することが必要です。それによって子どもたちは、将来自分が巣立っていく社会と学業との関係を見だして、自分が勉強しなければならない理由や重要性を理解するようになります。また、自分の興味や資質に気づいて、それを伸ばすにはどうしたらよいかと自ら考えることができるようになります。それが進学や就職など、次のステップへの興味・関心にもつながっていくのです。

○「夢や希望の育み」は学力向上にもつながる

目的意識を持った生徒は、物事に取り組む際の集中力、情報の吸収力が格段にアップします。昨年度秋に文部科学省が全国の中学校500校に対して行った調査^{*}でも、キャリア教育に関する学習の機会が多い学校の管理職ほど、「生徒の学習意欲向上を感じている率(学習意欲向上の認識率)」

が高いという結果が出ています。「学ぶ意義」への理解を大切にし、学校生活と社会生活を結び付ける教育こそが、真の学力向上につながることを教員自身が認識しなければなりません。

※「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」で、小学校1,000校、中学校500校、高校1,000校で実施。

○福井の「キャリア教育」の現状と課題

福井県の場合、小学校は地域との結びつきが強く、子どもたちはさまざまな地域活動に参加しており、学校現場がそれほど手をかけなくても、ある程度のキャリアアップが進んでいます。そのため、「キャリア教育の推進」に対する教員の危機感は、首都圏などの大都市に比べて薄いのではないかと思います。しかし、個々に見ると、キャリア発達の遅れが心配な子どもたちがいると感じる教員も少なくないでしょう。8ページで紹介する飯田市では、ふるさと学習を中核とした「キャリア教育年間指導計画」作成を全小中学校に奨励しています。また、「わが家の結いタイム」により、家庭でのキャリア教育の重要性を啓発しています。本県においては、どの学校でも「キャリア教育の指導計画」を立てていることと思いますが、1人の「キャリア教育担当者」に任されているところも多いようです。教務主任、研究主任等も積極的にキャリア教育に関わり、学校全体で取り組むキャリア教育を創っていく必要があります。

中学校と高校でのキャリア教育は、職場体験学習がかなりのウエートを占めていますので、学校と企業の連携が大切になります。このあと紹介する経済同友会の人づくり委員会や福井商工会議所青年部の

の取組みは、福井の人口減少による危機感から動き出したものです。しかし職場体験学習がより高い教育効果を上げるためには、このような企業側の取組みと、学校現場をつなぐ組織の構築が必要となってきます。飯田市では、関係機関の長で組織する「キャリア教育推進協議会」だけでなく、職場体験に関わる現場の担当者を集めた「キャリア教育研究委員会」も組織しています。福井県でも「キャリア教育コーディネーター」の配置も含め、県内各地区にふさわしい職場体験学習のあり方を研究していく必要があります。

12ページで紹介する福井農林高校の例にあるように、職業系高校において、キャリア教育は教育の中心に据えられています。ところが普通科高校においては、教科指導や受験指導に時間が割かれ、キャリア教育の推進が遅れており、課題となっています。

○すべての教員が「夢と希望を育む教育」を意識して

さらに一歩進めば、子どもたちの夢と希望を育むことは、日ごろの指導の中で、常に意識されていなければなりません。総合学習の時間に、キャリア教育関係の題材をとってつけたように扱ったり、職場見学や職場体験のような体験活動さえしていればキャリア教育をしたと錯覚していたりしては、体系的な教育活動とは言えません。教員自身が常にキャリアアップを図りながら、子どもたちの将来を見据えた教育活動ができるよう、学校を挙げてキャリア教育に取り組み、すべての教員が「子どもたちの夢や希望を育む教育」を意識して、あらゆる教育活動を行うことが大切になります。

キャリア教育とは

中学校、高校では、「進路指導」という言葉が用いられていますが、平成に入り、雇用・離職などの問題が浮上すると、単なる「進学・就職活動の支援」だけではなく、子どもたちの夢や希望、職業観や勤労観を育むことの重要性がクローズアップされるようになってきました。文部科学省は平成11年に初めて「キャリア教育」という言葉を使用し、さらに平成23年1月の中央教育審議会答申では、「一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義しました。

※文部科学省でも、「キャリア教育」に関して、調査報告やアドバイス集を出しています。是非ご一読ください。(本号の11ページにHPのリンク先を掲載します。)

全教員向け
教委向け

福井型キャリア教育モデルの模索

福井経済同友会人づくり委員会委員長

小川明彦氏インタビュー

小川氏は、首都圏の大学を卒業後、企業等には就職せず福井に戻り、400年以上も続く家業の酒屋を継承されました。1981年に、福井県初のコンビニへの業種転換を果たされて以来、「オレンジBOX」を中心に「食の提供」に関わる事業を展開されてきました。また、ビジネスマンや起業家に、ディスカッション型授業を中心に「ケースメソッド」教育を行う、「オレボビズスクール」を2007年に開校し、地方企業人の育成にも尽力されています。（同スクールは2017年の専門学校昇格を目指しています。）

そんな小川氏が、今年度初めに、福井経済同友会人づくり委員会の委員長に就任されました。「福井型キャリア教育」のシステムづくりに向け動き出した小川明彦氏にインタビューをお願いしました。

小川 明彦（おがわ・あきひこ）

(株)大津屋代表取締役社長。1956年福井市生まれ。

1975年、福井県立高志高等学校卒。1979年、慶應義塾大学卒。

家業である酒屋の「大津屋」を継いで、

1981年福井では初となるコンビニへの業種転換を果たす。

1994年、米飯・弁当惣菜ショップを出店。

2000年、こだわりのギフト専門店「これがうまいんじゃ大津屋」などを経営。

2001年、慶應義塾大学ケースメソッド教授法を修め、その後講師として活躍。

現在、ファミリービジネス研究所北陸支部長を務める。

元福井大学工学部大学院非常勤講師。

2013年5月「中小企業だから仕掛けられるマーケティングの大技」執筆（電子書籍にて）。

福井経済同友会人づくり委員会委員長。



○福井経済同友会の提言

福井経済同友会地域経営委員会では、平成25年4月、『人口流出から還流へ』～U・Iターンを地域の持続的な成長につなげるために～』という提言を発表しました。目標は、危機的な人口減少に歯止めをかける、Uターン・Iターンの促進です。U・Iターン経験者に対するアンケート調査の結果や、有識者を呼んでの研修会での知見をもとに提言をまとめました。この中では、福井の「住み良さ日本一、幸福度日本一」を積極的に発信することや、学校教育において「福井のふるさと教育」を充実させることも提唱されています。

これを契機に、U・Iターンの促進と、福井型キャリア教育のシステムづくりを研究する、「人づくり委員会」を「地域経営委員会」から独立させて、今年度初めに立ち上げました。

＜Iターン現象＞出身地とは別の地方に移り住む、とくに都市部から田舎に移り住むことを指す。人の動きを地図上に表すとアルファベットのI字状になることにちなむ。（ウィキペディアより）

○行政機関や学校現場の現状

「人づくり委員会」では、U・Iターンや福井のキャリア教育の現状を把握するため、行政各機関（県教育委員会、県産業労働部・観光営業部、福井市教育委員会など）、学校現場（福井市内の小中学校）、経済団体や企業に2か月間かけて取材を行いました。小学校では、「私の夢カルテ」の

活用と職場見学等がかなりの学校で実施されていますが、キャリア教育計画の作成はあまり進んでいないのが現状でした。中学校ではすべての学校でキャリア教育全体計画の作成や社会体験学習（職場体験）が行われ、足並みを揃えてがんばっている様子が見えました。しかし受け入れ先の職場確保が難しく、担当者が疲弊している学校も少なくありませんでした。高等学校のキャリア教育に対する取組みは、温度差が大きいようです。普通科進学校では、受験指導や部活動でキャリア教育まで手が回らず、「ようこそ先輩」などの行事が精一杯というのが現状のようです。

○経済団体や企業の現状

福井商工会議所青年部は「アントレ・キッズ」で6年間実績を上げています。福井青年会議所は「地域（まち）の担い手プログラム」で各小中学校を訪問しており、今夏は、新たに「スマイルキッズキャンプ2013」を小学生対象に実施しました。経営者協会やロータリークラブなども、インターンシップの受け入れ、高卒就職者に対する模擬面接指導など、キャリア教育のさまざまな支援を行っています。これらの経済団体では、現在、個別で行っている活動を連携させていこうとするムードがあり、2011年からは「ふくいキャリア教育フォーラム」を共催しています。

背景には、深刻化する企業の「七五三問題（就職して3年以内に中卒者の7割、高卒者の5割、大卒者の3割が離職する）」があります。

○中学校における「職場体験学習」のあるべき姿を探る

まずは中学校での「職場体験学習」のモデルを作りたいと考えました。PTAや先生方のつながりで受け入れをお願いしているだけで、子どもたちが、県を代表するような企業や製造業には行けないのが現状だからです。

抜本改革には、上記の3つの団体と福井市教委とがしっかりと連携することが重要になります。連携の手始めとして、この秋「職場体験学習」を行う中学校3校に対し、「職場体験学習」のモデルを提示しました。ポイントは2点あります。第一に、受け入れる企業側の教育プログラムを充実させることです。「人づくり委員会」がエントリーシートを作り、受け入れ企業に指導プログラム例を提示することで協力しました。福井市では現在、3日間の「職場体験学習」が一般的ですので、子どもたちがより深く学べるよう、3日間の綿密なプログラムを組んでいただいています。第二に、「職場体験学習」の記録を残すことです。できればそれがWeb上で検索できるような仕組みが整うと、後輩が参加する際の参考にもなりますし、福井市内全中学校への広がりが期待できます。報告シートはA4判1枚程度で、本人の感想だけでなく、対応した社員の感想、社長（上司）、保護者、担任のコメントなどで構成する予定です。さらに用紙の最後に「〇〇会社に対する提言」を作りたいと考えています。この記録は、将来、U・Iターンを考える際にも参考になり、U・Iターン問題の解決にも一役買えると思っています。全国の他の地域を見渡すと、キャリア教育に関するいろいろな先進事例がありますが、福井が一番のモデルを作るくらいの意気込みでやっていきたいと考えています。

ふくいキャリア教育フォーラム2013

と き：平成25年11月17日（日）
13：00～16：50

ところ：福井県産業情報センター1階
坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16（福井県立大学西側）
入場無料 定員／先着180名

主催：ふくいキャリア教育フォーラム実行委員会
問合せ先：福井青年会議所事務局

TEL0776(33)1750

<http://www.fukuijc.or.jp/imgs/careerforum.pdf>

※これらの取組みは、11月17日に行われる「ふくいキャリア教育フォーラム」で発表する予定です。当日は中学生と保護者にも「職場体験学習」の様子を話していただくことになっています。

（平成25年9月13日 ご本人にインタビュー）

小中教員向け

おしごと探検隊「アントレ・キッズ」

～福井商工会議所青年部（福井YEG）の実践～

福井商工会議所青年部（福井YEG）が主催する「おしごと探検隊 “アントレ・キッズ”」事業は、「仕事の意義」「仕事のやりがい」「仕事の体験・経験」の3つを企画ポリシーとするキャリア教育として平成17年からスタートし、現在も小中学校を中心に活動を展開しています。これらの取組みが認められ、福井商工会議所青年部は、平成19年度文部科学省「キャリア教育優良団体」文部科学大臣表彰、平成23年度経済産業省「第2回キャリア教育アワード」経済産業大臣賞大賞（最優秀賞）を受賞しています。

今回、福井商工会議所青年部（以下福井YEG）会長の 山口広征氏、副会長の 菊祥行氏、未来へはばたけ委員会委員長の中川知士氏 に、「アントレ・キッズ」事業を中心にさまざまなお話をうかがいました。

○「えきまえアントレ・キッズ」

平成20年から実施している「えきまえアントレ・キッズ」は今年で6回目を迎えました。今年は8月24日（土）に開催され、小学校5、6年生260名（定員）が、福井駅前を中心とした35の事業所や商店で仕事を体験しました。近年この事業はマスコミにも大きく取り上げられて知名度が上がり、午前と午後に分けて開催しなければならないほど、参加を希望する児童が増えています。



この「えきまえアントレ・キッズ」事業は、「まちづくりふくい株式会社」との共催で行われています。福井YEGは平成17年から「おしごと探検隊 アントレ・キッズ」事業に取り組んでいますが、「えきまえアントレ・キッズ」はこの事業とは少し趣旨の違うものとなっています。

○日本（福井）の産業を支える人材の育成

学校の教育は教科学習やスポーツが中心で、体験型学習においても自然観察や科学実験などが多く、職業（仕事）に関するものは少ないのが現状です。「小学生がなりたい職業」の調査でも、男の子は「プロスポーツ選手」、女の子は「ケーキ屋さん」など以前と変わらない職業を挙げる場合が多く、情報や選択肢が少ない現状が反映されています。このような現状の中、福井YEGでは、会員が自らの仕事を紹介し、子どもたちにその仕事を体験してもらおう機会を設けることによって、働くことの厳しさ・素晴らしさや仕事のおもしろさを知ってもらいたいと考えています。そして、将来の仕事に対する「夢」の幅を広げ、日本（福井）を支える人材を育てたいと考えています。それを形にしようと始めたのが、「おしごと探検隊 アントレ・キッズ」事業です。

○小（中）学校への訪問による体験講座の実施が基本

平成17年11月に福井市酒生(さこう)小学校PTAとの共催で、「アントレ・キッズ in 酒生小学校」が開催されました。親子参加が原則で、テーマごとに9講座（3～6年生6講座、1，2年生3講座）を準備し、福井YEGのメンバーが講師となり、1テーマ25名程度に分かれて、体験講座を実施しました。子どもたちにさまざまな仕事を体験してもらうのが目的ではありませんが、自分たちの仕事を紹介することによって、仕事の内容ややりがいを再認識することができたり、子どもたちが理解できるよう伝えるためのコミュニケーションスキルの向上につながったり、講師を務める福井YEGの会員にとってもメリットがありました。

これが「アントレ・キッズ」の基本になりました。その後、小中学校を訪問する形式での「アントレ・キッズ」は、福井市豊小学校や安居中学校などで10回以上行われています。



○福井の中小企業の活性化

福井には、世界に通じる技術を持っている企業が多数あります。また、いろいろな産業の下支えをしている中小企業も多数存在しています。しかし、グローバル化による仕事の減少、大手進出による価格競争、人口流出による商業エリアの縮小など、中小企業にとっては厳しい時代になっています。「アントレ・キッズ」の実施は、企業人の仕事に対する誇りや、やりがいを示すことができ、自信と元気を取り戻し、企業や地域の活性化につながっています。子どもたちも、そういった福井の企業を知ることによって、ふるさと福井への愛着心や誇りが芽生え、将来の夢や希望の選択肢を増やすことにもなっています。

○各小学校で地域（保護者）の会社が実施するのが理想

児童が集団登校で通学する途中にも、何気なく通過している事業所があります。「こんな身近にある工場が、こんなものを作っていたのか」という発見は、児童にとって大きなインパクトがあります。

「アントレ・キッズ」は福井YEGの会員が中心となって講師を務めていましたが、近年では、会員以外の事業所等にもどんどん参加していただいています。特に、実施する地区の事業所等の参加が増えるのが理想だと思います。地域の事業所や、保護者の勤める事業所などが参加して、PTAと地域が主体となった「アントレ・キッズ」が広がっていくことを望んでいます。そのために、初めての人でも講師を務められるよう、「アントレ・キッズ魔法のマニュアル」も作成しました。福井YEGはこの活動をどんどん支援したいと考えていますので、学校やPTAの方々は気兼ねなくご連絡ください。



お話をうかがった福井商工会議所青年部のみなさん
左から山口広征会長、中川知士委員長、菊 祥行 副会長

福井商工会議所青年部（福井YEG）HP <http://www.fcci.or.jp/fyeg/>
「おしごと探検隊 アントレ・キッズ」HP <http://www.fcci.or.jp/fyeg/entrekids/>
「アントレ・キッズ魔法のマニュアル」 <http://www.fcci.or.jp/fyeg/entrekids/magicmanual.pdf>

教委向け
全教員向け

学校・家庭・地域の連携プレーで ～飯田市のキャリア教育への取組み～

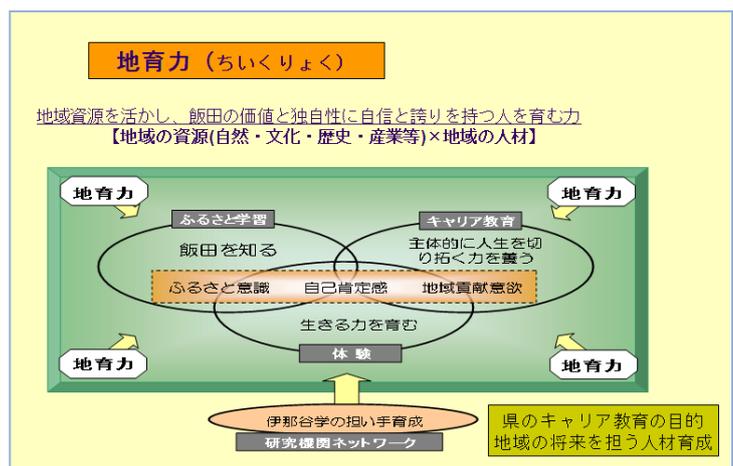
飯田市は長野県南部に位置し、人口約10万3千人、小学校19校、中学校9校、高校5校があります。江戸時代には飯田藩の城下町として栄え、りんご並木と人形劇の町としても有名です。戦後起きた飯田大火から、復興を願って飯田東中の生徒が植えた40本のりんご並木は、今年60年を迎えました。今では市の象徴となっています。また、「飯田」の語源は「結いの田」とも言われており、昔から、田植えなどの農作業の手間を交換し合う「結い」という仕組みがありました。現在も、互いの暮らしを支え合い、人と人とを結ぶ「結い」の心を大事にしたまちづくりを進めています。

このように地域の結びつきを大切にする飯田市では、平成18年頃から「結い」と「地育力」をキーワードとしたキャリア教育を推進してきました。学校と企業・地域を結ぶ「飯田市キャリア教育推進協議会」という組織を立ち上げ、職場体験だけでなく、家庭でのキャリア教育にも力点を置き、大きな成果をあげています。平成20年度にはキャリア教育優良教育委員会文部科学大臣表彰、平成24年度には文部科学省「キャリア教育推進連携表彰」を受賞しています。

飯田市の取組みについて、飯田市教育委員会生涯学習・スポーツ課の、高梨永二主事・北澤明主事のお二人からお話をうかがいました。

○「飯田に帰ってきたい」と考える人づくり

飯田市も他の地方都市同様、人口減少傾向をいかに食い止めるかが課題となっています。平成18年に文部科学省から「キャリアスタートウィーク推進地域」の指定を受けたのを契機に、「地育力」をキーワードとして、「帰ってきたいと考える人づくり」に取り組んできました。若者が一度は地域外に出ても、飯田に戻って就職し、安心して次の世代を育んでもらえるような人材定着の流れをつくるのが目的でした。「地育力」は、「飯田の資源を活かして、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力」のことで、「将来飯田に住みたい」あるいは「飯田に帰ってきたい」と考える人を育む人づくりの力と定義しています。

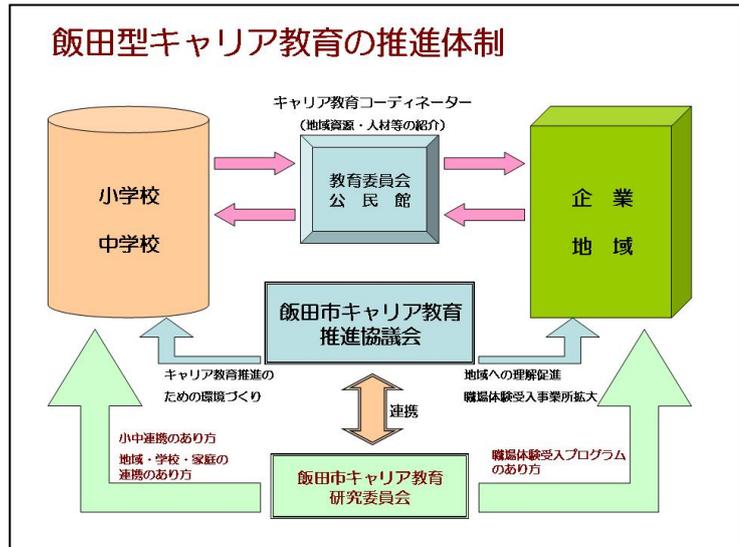


○キャリア教育に関わる組織

平成21年には、キャリア教育全般に関わる啓発と事業の推進を目的に、「キャリア教育推進協議会」を組織しました。教育長を会長とし、商工会議所会頭や農協組合長を副会長とする、学校と企業をつなぐ組織となっています。その後、職場体験の事前・事後学習の研究や、小中学校におけるキャリア教育の研究を目的として、「キャリア教育研究委員会」を立ち上げました。メンバーは、校長会・教頭会・事業所の職場体験担当者・小中高のキャリア教育担当で構成されています。

○職場体験のコーディネーター

キャリア教育の中心的事業が、中学校の職場体験です。文部科学省は中学生に5日間程度の職場体験を推奨していますが、各中学校で受け入れ先を探すのは、たいへんな労力を要します。飯田市の場合、「キャリア教育推進協議会」が学校と企業・地域をつなぐ役割をし、その事務局である飯田市教育委員会生涯学習・スポーツ課地育力向上係に配属されている「キャリア教育コーディネーター」が、職場体験のコーディネートをしています。飯田市9中学校の2年生での職場体験の平均日数は3.3日です。3年生でも福祉職場体験を行っている学校が多くあり、それも含めると、中学校での職場体験の平均日数は4.8日となっています。



○家庭におけるキャリア教育「わが家の結いタイム」

飯田市教育委員会では、家族と一緒に過ごし心を通わせるひと時を「わが家の結いタイム」と名づけて、右の4つの実践を提唱しています。

この「わが家の結いタイム」事業の主眼は、啓発活動です。「ポスターコンクール」は今年度が5年目、「三行詩コンクール」は3年目を迎えています。

平成22年度には家庭、学校、地域、関係機関が連携して、地域全体に結いタイムの取組みが広がるよう、「わが家の結いタイム推進協議会」を立ち上げました。一昨年度からはPTAにも結いタイム担当者が位置づけられるなど、活動に広がりが見えてきています。

わが家の結いタイム

- あいさつ … 家族とのあいさつからはじめよう
- 会話 … 家族の会話の機会を増やしましょう
- お手伝い … 家のお手伝いをしましょう
- 読書 … 親子で一緒に本を読みましょう

○キャリア教育に関する取組み

ほかにもさまざまな取組みを行っています。小中学校では、ふるさと学習を中核にして、9年間のキャリア教育指導計画を作成しています。小中合同で「結い交流プログラム—ふるさと学習実践発表会—」を実施し、キャリア教育小中連携のあり方を実証しているところもあります。中学校のリーダー養成事業として「結いジュニアリーダー育成講座」、教職員の体験講座として「結いキャリアアップ体験講座」なども行われています。

さらに市民へのキャリア教育の啓発事業として、「キャリア教育推進フォーラム」や「地育力通信」の発行なども行っており、さまざまな取組みが飯田市のキャリア教育の支えとなっています。

このポスターは「結い・トライ・アングル」で、3つの「結い」を表しています。内容は以下の通りです。

- 【働く・学ぶ・生きる】を結ぶ
キャリア教育は、働くことを通じて今の勉強や生活が大切だと気づき、子どもたちの学習意欲や生きる力を高めるための教育です。
- 【未来・現在・過去】を結ぶ
キャリア教育は、過去の自分を振り返り、現在の自分を見つめ、未来の自分を描くための教育です。
- 【学校・地域・家庭】を結ぶ
キャリア教育は、学校と地域と家庭が連携を強化し、「地域の子どもは地域で育てる」ための地域の力を高める教育です。

※ 飯田市教育委員会が運営する「地育力どっとネット」のアドレス <http://www.city.iida.lg.jp/site/chiikuryoku/>

小中学校教員向け

「私の夢カルテ」～坂井市立雄島小学校～

県では、「私の夢カルテ」を小学校4年生から中学校3年生に配付し、活用を推奨しています。これは、児童生徒が1年間の学習や活動を振り返ることで、自分の夢や目標などを確認し、夢に向かって挑戦する態度を育成するためのものです。坂井市立雄島小学校6年生は、この「私の夢カルテ」を活用して、簡単なポートフォリオを作成しています。6年東組担任の佐藤恭二教諭に、ポートフォリオを見せていただきながらお話をうかがいました。



【写真1】「私の夢カルテ」表紙に4年時の手形を残しています

○ポートフォリオに3年間の足跡を綴る

雄島小学校では【写真2】のファイルを使用して、「私の夢カルテ」と4年生から6年生までの



【写真2】記録を綴るファイル表紙は生徒が自由にアレンジします



【写真3】4年生の表紙コンピュータソフトを利用

記録を綴じます。【写真2】のように、表紙は各自がアレンジします。このファイルには18枚のクリアホルダーが装備されており、各学年の記録用に6枚（12ページ分）ずつ割り振っています。学校行事や総合学習の時間などに特別授業が行われた後は、感想や記録を残している学校も多いと思います。雄島小学校の児童は、1年の終わりにその感想や記録をもう一度振り返り、特に心に残るものを11枚選んで、ポートフォリオとして綴っていきます。たとえば【写

真2】のファイルにまず【写真1】の「私の夢カルテ」を綴じます。その次は4年生の表紙（【写真3】）、その後ろに11ページの4年時の記録を綴じていきます。5、6年時も同様に、表紙の後に記録を綴じていきます。そうすると、卒業時に、「私の夢カルテ」に加え、3年間の記録を綴ったポートフォリオが完成することになります（【写真4～6】参照）。【写真3】のように、コンピュータソフトを利用する場合もあり、コンピュータリテラシーのスキルアップにも一役買っています。



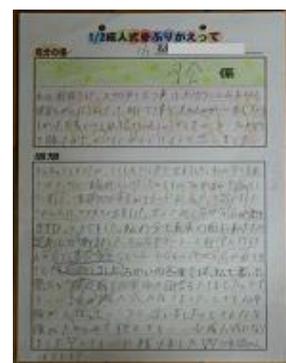
＜写真4＞各学年の記録を綴っています

○中学校入学時に引き継ぐ

雄島小学校は、坂井市立三国中学校区になります。三国中学校区の小学校では、【写真2】の「ファイル」を同じ型のもので揃えています（色は小学校ごとに異なります）。中学校入学の際にファイルを引き継いでも、棚などへの整理がしやすくなるよう配慮されています。



＜写真5＞4年生の初めに総合の時間に実施した「ほく、わたしのパワーアップ計画」



＜写真6＞4年生で実施した「1/2成人式」の振り返り

◇学校の特色を生かして実践する方法等について、分かりやすく解説（全教員向け）

「キャリア教育を創る－学校の特色を生かして実践するキャリア教育－」

（平成23年11月）国立教育政策研究所生徒指導研究センター

http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/23career_shiryou/all_version.pdf

◇年間指導計画を作成する手順等を具体的に提示（主任クラス教員向け）

「キャリア教育をデザインする－今ある教育活動を生かしたキャリア教育－」

（平成24年8月）国立教育政策研究所生徒指導研究センター

http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/design-career/all_ver.pdf

◇キャリア教育推進用パンフレット（校種別、一般教員向け）

「自分に気付き、未来を築くキャリア教育－小学校におけるキャリア教育推進のために－」

（平成21年3月）国立教育政策研究所生徒指導研究センター

http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syoukyari/shougakkoucareer_all.pdf

「自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育－中学校におけるキャリア教育推進のために－」

（平成21年11月）国立教育政策研究所生徒指導研究センター

<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21chuugaku.career/chuugakkou.panfu.htm>

「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育－高等学校におけるキャリア教育推進のために－」

（平成22年2月）国立教育政策研究所生徒指導研究センター

<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21%20koukou.career/koukou.panfu.htm>

◇外部人材活用等に関する調査研究協力者会議の報告書（さまざまな情報が満載－全38ページ）

「学校が社会と協働して一日も早くすべての児童生徒に充実したキャリア教育を行うために」

（平成23年12月）キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/12/_icsFiles/afieldfile/2011/12/09/1313996_01.pdf

◇キャリア教育に関する研修用資料（研修で使える資料がたくさん掲載されています）

「今後の学校におけるキャリア教育の在り方について Part 1 総論編」

「今後の学校におけるキャリア教育の在り方について Part 2 各論小学校編」

「今後の学校におけるキャリア教育の在り方について Part 2 各論中学校編」

「今後の学校におけるキャリア教育の在り方について Part 2 各論高等学校編」

いずれも次のHPからダウンロードできます http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1315458.htm

◇キャリア教育に関する詳しい解説書です

「小学校 キャリア教育の手引き〈改訂版〉」（抜粋）（平成23年5月）文部科学省

「中学校 キャリア教育の手引き」（抜粋）（平成23年3月）文部科学省

「高等学校 キャリア教育の手引き」（抜粋）（平成23年11月）文部科学省

上記3冊も文科省のHPからダウンロードできますが、どれも200ページ前後ありますので、かなりの量になります。市販（それぞれ819円）もされています。

高校教員向け

全教職員で地域や企業と結び付く

～福井農林高校のキャリア教育～

福井農林高校は、今年で開校120年目を迎えた歴史と伝統を持つ農業の専門高校で、現在、生物生産科、環境工学科、生活科学科、生産流通科の4学科があります。地域住民とのつながりを大切にすることで、企業との結び付きも強化し、学校上げてのキャリア教育に全教職員で取り組んでいます。

○「キャリア教育」の重点事項

福井農林高校の「キャリア教育」重点事項は右の3点です。この3点を柱に、すべての教育活動の中で、工夫した実践を行うよう定めています。

キャリア教育の中心である「総合学習」の時間は、学年ごとに「学習テーマ」を設定しています。1年生は自己理解が中心で、特徴的なものとしては、日本ファイナンシャルプランナーズ協会福井支部から講師を招いて、「ライフプランニング」研修会を実施

しています。人生設計との生活資金の関係を具体的に自分の将来に重ね合わせながら、ライフプランニングを学んでいきます。2年生は勤労観育成のため、インターンシップ（職場体験）が中心です。学科ごとの実施ですが、体験先の依頼などをはじめとする事前学習や、インターンシップ終了後の報告書作成と発表会の実施まで、綿密な指導計画に基づいて行われています。3年生はやはり自己実現のための進路選択が中心で、就職希望者と進学希望者に分けてプログラムを実施しています。就職指導者には、応募前職場見学（全員）や職場体験を実施しています。

重点事項

- ①聞く力、考える力、表現する力を育てる
- ②基礎的なマナーを身につけさせる
 - ・あいさつの励行と場に応じたコミュニケーション
 - ・場に応じた言葉遣い
- ③基礎学力をつける
 - ・漢字、計算、一般常識を身につける

○小論文指導により「表現する力」を育てる

特徴的な指導の一つに小論文指導があります。1, 2年生が中心で、年間4回程度計画されています。指導の中心は担任ですが、業者による添削指導も受けています。年度末には「小論文発表会」を実施し、「表現する力」を育てるための系統的な指導が行われています。

○進路先決定後の指導

職業系高校では、3年生が就職試験を受ける直前期に、ロータリークラブから模擬面接指導を受けるのが一般的ですが、福井農林高校では、直前期だけではなく、進路決定後の3学期にも、福井東ロータリークラブの協力で進路別講話を実施しています。ほかにも、就職内定者のビジネススキルアップセミナーや、進学内定者の基礎学力向上指導も行っています。

○3年間のキャリアアップの記録

もう一つの特徴は、「自己啓発ノート」です。入学直後のオリエンテーション、進路ガイダンスから始まり、前述した以外にも、「キャリアアップ研修会」や「先輩と職業を語る会」「卒業生から

のメッセージ大会」などのさまざまなプログラムが組み込まれています。それらの体験を、生徒は各自でファイリングし、自己のキャリアアップを「自己啓発ノート」（右写真参照）という形で積み重ねています。



○伝統的に積み上げてきたもの

福井農林高校で現在行われているプログラムは、数え上げるのが困難なほど多くあります。平成16～18年度にかけて、文部科学省から、旧美山町（現福井市）の小学校、中学校とともに「キャリア教育推進地域」の指定を受けました。また平成18～20年度にかけては、将来のスペシャリストの育成に係る教育を重点的に実施し、これらの教育課程等に関する研究開発を行う「目指せスペシャリスト（スーパー専門高校）」の指定も受けています。福井農林高校では、これらの時期に作り上げられたプログラムを進化させながら継承し、現在の財産としているのです。

受け継いできたのは、事業だけではなく、地域や企業とのつながりも同様です。福井農林高校では、昭和の時代から職場体験活動を行っており、平成7年頃には、すでに5日間の職場体験活動を実施していました。そのため、伝統的に企業や事業所とのつながりが深く、職場体験の受け入れ先として、あるいは就職先としての選択肢を広げています。

えちぜん鉄道「越前開発駅」に掲示されている「ふれあいマーケット」の案内



また、地域住民に農地（畑）を貸し出す「ふれあい農園」や、校内で栽培された野菜などを売り出す「ふれあいマーケット」などの事業も伝統的に実施されており、地域との結びつきも強固なものとなっています。

○キャリア教育を中心に据えた全教職員あげての教育

今年度から、インターンシップは全学年で5日間の実施になりました。ますます企業や地域との結びつきの重要度が増しています。教職員はそのことをよく認識しており、学校内での教育だけでなく、企業や地域の支えによって生徒が成長していく姿を、普段の活動からも実感しています。そのため、全教職員がインターンシップをはじめとするキャリア教育に、主体的に関わっています。企業訪問についても、全教職員が手分けして企業に出向いて、インターンシップの受け入れや求人依頼等を行っています。

○県の事業によるブラッシュアップ

福井農林高校には、現在、二人のキャリアコーディネーターが常勤しています。3年生で実施しているインターンシップに深く関わっており、求人依頼のための企業訪問や、新たな進路先の開拓なども行っています。また、各学年4クラスのうち2クラスずつを分担して、全生徒の面談もしています。1年生は3学期に、2年生は2学期に、3年生は1学期にという具合です。教員とは違った視点での面談は、生徒からも好評です。

次世代人材育成会議の提言を受けて、昨年度から、職業系高校教育の質の向上を図る施策が増えてきました。そういった県の事業を活用することによって、平成16年から20年にかけて文部科学省の指定を受けてレベルアップしてきたキャリア教育関連の事業も、さらに拡大したりブラッシュアップしたりすることが可能となっています。

連載

「希望学」③ ～中村圭介氏インタビュー～

「希望学」3回目の連載です。今回からは、玄田有史氏ではなく、「希望学、福井調査」に関わった方々にお話をうかがいます。今回は東京大学社会科学研究所教授の中村圭介氏です。

中村 圭介（なかむら・けいすけ）

東京大学社会科学研究所教授。1952年福岡県生まれ。専門は労使関係論。
主な著書に「地域経済の再生－釜石からのメッセージ」（東京大学社会科学研究所）、
「絶望なんかしてられない－救命救急医ドクター・ニーノ戦場を駆ける」（荘道社）、
「成果主義の真実」（東洋経済新報社）など。



○鯖江の眼鏡産業の調査「縮んではいるが衰退はしていない」

福井では延べ14日間ほどかけて、日本産の9割のシェアを誇る鯖江市の眼鏡産業の調査を行いました。眼鏡産業は、この20年の間に、事業所数は4割、労働者数は3割減少しています。しかし、1事業所当たりの出荷額は、1.4億円まで回復してきています。このことは、厳しい時代を迎えている中でも、諦めずに努力してきた企業や企業人がいることを物語っています。

○既存の秩序を壊して生き残る

堀川馨氏は、県外の大学卒業後、兄に請われて「シャルマン眼鏡」に戻りました。同社は眼鏡の零細部品メーカーで、厳しい経営状況でしたが、「部品だけでなく眼鏡も作り、それを自分で売る」という、今までの分業関係の破壊にチャレンジして成功しました。金子真也氏も大学卒業後鯖江に戻り、眼鏡の卸商「金子眼鏡」を継ぎました。卸商として北海道に行った時に、「10年後も同じようにこんなところを回っていたら、君、たいしたことないな」と言われたことに奮起し、「自分で企画・デザインしてメーカーに制作を依頼し、自分で販売する」というリスクの高い方法にチャレンジして成功しました。失敗を恐れない「革新精神」が、鯖江の眼鏡産業を支えているのです。

○福井の人が知らない福井を発信すべき

たとえば「金子眼鏡店」は羽田空港の国際線ターミナルに、鯖江の人気眼鏡メーカー「ボストンクラブ」は東京銀座帝国ホテル近くに、直営店を持っています。伊勢丹新宿店「大日本市」にも、鯖江の漆器店「漆琳堂」の人気コーナーがあります。福井の方たちはこれらのことをご存じでしょうか。眼鏡産業に限らず、努力している福井の企業の「頑張ってきた歴史」を、福井の子どもたちに伝えていかなければなりません。それによって新たな「希望」が生まれてくるのです。

○挑戦することから成功の道は始まる

チャレンジにはリスクが伴います。実際、失敗例の方が数多くあります。しかし、厳しい状況に追い込まれたときに、あきらめたら先には進めません。チャレンジ精神だけでも簡単には成功しません。「成功者はどういう行動をとったか」という情報を得たり、「成功するために何が必要か」を考えたりすることで、成功の道を探るしかありません。人との結び付きが成功を導くこともあれば、たまたま起こった社会変化が成功につながることもあり、さまざまな要素がからんでいます。それでも、「ひるまず、結果を恐れず、戦略を探し、実行する」ことが大切であることを、鯖江の調査から感じました。

（平成25年9月4日ご本人にインタビュー）

※鯖江調査は「眼鏡と希望－縮小する鯖江のダイナミックスー」(東京大学社会科学研究所研究シリーズ No.49)にまとめられています。

公開授業
報告

中高の接続に焦点を当てた授業で

中高授業改善交流会（英語）が行われました

於：大野市開成中学校

- 公開授業 ・授業者 広瀬 泰司 教諭 Giacccone Nicole(ALT) ・授業教室 1年2組
 ・授業内容 Unit 5 「お祭り大好き」 命令形の学習 ・参観者 合計19名

中高授業接続ガイド「教科別重点ポイント」の1年生の〈話すことの指導〉

「質問に答えた後、1～2文を付け加えて話す」

相手を変えてペアトークを何度も行う中で、質問に対する様々な意見や表現に慣れる。高校において、質問に対して3～5文以上でまとまりのある内容で答えるための基礎を養う。

授業は「あいさつとウォーミングアップ」から始まりました。広瀬教諭とニコル(ALT)が生徒一人ひとりに対して質問した後、2人ずつペアになって「Q&A」をしました。その後はいよいよ“Let’s ～”で始まる命令文の学習です。ラケット、ギター、スプーンなどの7つのアイテムを準備して、「“Let’s ～”の命令文と、それに対する答え」を5つずつ、班で相談しながら作りました。最後に2名を選び、「Q側」と「A側」に分かれて、みんなの前で「Q&A」を行いました。「A側」は「Yes,～」 「No,～」のあとに、必ず1文ずつ付け加えて答えていました。



あいさつとウォーミングアップ



班活動



最後の発表

- 研究協議会 ・参加者 合計14名

授業者のコメント

「質問に複数文で答える」という内容をなるべくたくさん織り込んでプランを立てた。生徒たちは2文目までは答えていたが、3文目を答える生徒がいたらさらに良かった。後半の「“Let’s ～”を使って友達を誘う」活動のとき、質問側がいきなり“Let’s ～”と誘うのではなく、“I have a pen.”から入った後に“Let’s～”と誘う生徒がいた。何も指示しなくても複数文を使って誘った生徒がいたことがとても良かった。

西指導主事の助言

最初のウォームアップでは、様々な疑問文(What’s your favorite ～?, Is this ～?, Do you like ～?)に対してすばやく応答し2文で答えていた。毎日のchat活動の成果が表れていた。Let’s ～の導入や練習では、インタラクション等の中でLet’sの後に動詞の原形がくるという規則を生徒に考えさせていた。既習事項を総動員して規則を見つけさせようとしており、大変参考になる活動だった。授業後半は、グループで様々な誘いかけを作り、それらに想定した答えを考えるグループ活動だった。場面設定を考えながら、「ここは〇〇のように答えるべきなのではないか。」という議論が行われていた。生徒に具体的な場面や状況に合った適切な表現を考えさせるよう活動を工夫していた点もよかった。全体的にそれぞれの活動に対するタスクがやや高めに設定されており、生徒は大変熱心に活動していた。

一質疑と協議の中での話題をピックアップ(参)は参加者

○中学校の授業の特徴は「気づきづくり」 (授)は授業者

(参)高校だと先に学習内容の説明をして本文に入っていく授業形態が多い。ペア・グループ活動をしなが、生徒がよくする間違いを見つけ出し修復していくところに感心した。

(授)学年が上がるにつれて難しくなっているが、なるべく直接的に説明をせずに、既習事項を使って気づかせるようにしている。

○よいグループ活動とは

(参)グループを作っても答えがあっているか間違っているかを確認するだけではだめである。「話す活動をして書かせて終わり」というパターンもよくある。今日は話し合わせながら、さまざまな問答を想像(創造)させる形になっていた。アイテムやワークシートにもさまざまな「仕掛け(工夫)」があった。

○中から高へ… 興味・関心の維持

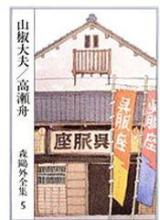
(参)ほとんど英語嫌いの生徒がいないように感じた。ところが、高校に入る頃になると逆転傾向になる。

(授)この学級の中にも英語が苦手な生徒は4、5人いる。学年が上がるにつれて苦手な生徒の数は増えていく。(指導要領改訂後)覚える量が増えたため、すべてを覚えるのではなく「必修語」以外は意味が分かればよい、単語が読めればよいというスタンスで語彙指導をするようになった。生徒の心が英語から離れないように指導している。

参考図書



■玄田有史 編「希望学 あしたの向こうに 希望の福井、福井の希望」東京大学出版会
「動き出そう！行動が希望とつながりをつくりだす」あの「希望学」が帰ってきた。今回は福井県での調査をもとに、地域社会にとっての「希望」を考える。山崎亮×玄田有史、藻谷浩介×中村尚史の対談も収録。地域の衰退が叫ばれる現在、どのような社会に「希望」が生まれるのか。幸福度で注目されることの多い福井県を、4年間にわたり行政、生活、文化、原発など多方面に調査し、地域の原点を見つめなおすことで地域の希望を見出すことをメッセージとして訴える。(Amazon ウェブサイトより)



■「森鷗外全集<5>」ちくま文庫(採用内定者研修図書)

幅広く深遠な鷗外の作品を簡潔精細な注と、気鋭による清新な解説を付しておく、画期的な文庫版全集。大塩平八郎「堺事件」「安井夫人」「山椒大夫」「魚玄機」「じいさんばあさん」「最後の一句」「高瀬舟」「寒山拾得」他二篇収録。(筑摩書房ウェブサイトより)



■「芥川龍之介全集<1>」ちくま文庫(採用内定者研修図書)

確かな不安を漠然とした希望の中に生きた芥川の全貌。名手の名をほしいままにした短編から、日記、随筆、紀行文までを収める。「老年」「青年と死」「ひょっとこ」「仙人」「羅生門」「鼻」「孤独地獄」「父」「風」「酒虫」「野呂松人形」「芋粥」「猿」「手内」「煙草と悪魔」「煙管」「運」他9篇。(筑摩書房ウェブサイトより)

芦泉荘からの

冬の味覚のお知らせ

～ 団体様、ご家族でのご利用に是非ご利用ください～

越前蟹御膳

基本プラン(青葉)
+
ズワイガニ各組1杯



越前蟹満足コース

ズワイガニ各グループ1杯
セイコガニ各1杯
カニしゃぶ カニ天ぷら
カニ釜飯 フルーツ
お食事

2名様で ズワイガニ1杯	地蟹を使用	お一人様1杯2食付	14,650円
	近海蟹を使用	お一人様1杯2食付	9,650円
3名様で ズワイガニ1杯	地蟹を使用	お一人様1杯2食付	12,150円
	近海蟹を使用	お一人様1杯2食付	8,850円
4名様で ズワイガニ1杯	地蟹を使用	お一人様1杯2食付	10,900円
	近海蟹を使用	お一人様1杯2食付	8,400円

1名様で ズワイガニ1杯	地蟹を使用	お一人様1杯2食付	26,000円
	近海蟹を使用	お一人様1杯2食付	17,000円
2名様で ズワイガニ1杯	地蟹を使用	お一人様1杯2食付	20,000円
	近海蟹を使用	お一人様1杯2食付	14,000円
3名様で ズワイガニ1杯	地蟹を使用	お一人様1杯2食付	16,500円
	近海蟹を使用	お一人様1杯2食付	13,200円

【期間】平成25年11月15日～平成26年3月20日(12月26日～1月6日は除く)

■ 詳しいお問い合わせについては 0776-77-3200までご連絡ください。

バックナンバーをホームページに掲載しています。

福井県のウェブサイト「学習・教育」のページに教育情報誌「明日への学び」のバックナンバーを掲載しています。(<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/gakukyousei/asuhenomanabi.html>)

明日への学び で検索してください。

ご意見をお寄せください。

住所：福井市大手 3-17-1

連絡先：福井県教育庁学校教育政策課

TEL：0776-20-0295

FAX：0776-20-0668

Mail：gakukyousei@pref.fukui.lg.jp